

サトイモ疫病の発生に注意しましょう！

令和4年7月

JA 山武郡市 営農部 営農振興課

山武農業事務所 改良普及課

【発生の目安】

「日平均気温 25℃」 + 「まとまった降雨」



早期防除が非常に重要です！！

＜効果的な防除の一例＞

○発生前は予防効果のある剤を散布する。

○発生直後、速やかに治療効果のあるダイナモ顆粒水和剤

あるいはアミスター20フロアブルを連続散布し、発病・進行を抑える。

○その後は1～2週間に1回程度のペースで登録薬剤を散布し、病気の蔓延を抑える。



拡大



図 疫病の病斑

表 サトイモの疫病に登録のある散布剤の例（令和4年6月22日現在）

FRAC コード	薬剤名	倍率	使用時期	使用回数	予防	治療
M03	ペンコゼブ水和剤	500倍	収穫7日前まで	2回以内	○	
21	ランマンフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内	○	
M01	ジーファイン水和剤	1000倍	収穫前日まで	—	○	○
11	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	○	○
21,27	ダイナモ顆粒水和剤	2000倍	収穫21日前まで	3回以内	○	○

＜注意＞

○サトイモの葉は強い撥水性があるので、展着剤を併用し、株元までしっかり散布しましょう。

○強日射によるマルチの照り返しや、高温により葉焼けが誘発されるときは薬害の発生が助長されます。午前中の涼しい時間帯での散布を心がけましょう。

なお、以下の組み合わせでは薬害が生じる恐れがありますので、注意してください。

例) アミスター20フロアブル+アプローチB I、ペンコゼブ水和剤+スカッシュ

○農薬使用時は必ずラベルの記載内容を確認してください。

○収穫前日数が長い薬剤があるので、使用時期に注意しましょう。